

# 研修事業を通じたグローバル化

海外・社内での技術研修

海外事業推進部 川端 俊介・カムソコ カレジ・谷口 しおり  
DS技術部 村田 雄一郎

## はじめに

アジア航測は東南アジア・アフリカなどの開発途上国において、数多くの ODA（政府開発援助）事業に取り組んでおります。

近年、開発途上国は、急激な都市化に伴う人口増、慢性的な交通渋滞、無秩序な都市開発などの社会問題に直面しており、開発を適正に推進するための都市基盤図や、人材の能力強化などの需要が高まっている状況にあります。これらの需要に応えるため、アジア航測はこれまでの

ODA 事業を通じ良好な協力関係を構築している政府機関や海外企業を対象とした技術研修を提供しております。

今回は 2018 年に実施したモンゴル国 MonMap Engineering Services Co., Ltd（以下、MONMAP 社）研修、ジンバブエ国測量局（以下、DSG）に実施した図化名（Azuka）研修、そして、ABE イニシアティブ（アフリカの若者のための産業人材育成イニシアティブ）からの留学生受け入れについて、ご紹介致します。

## モンゴル国 MONMAP 社本邦研修

アジア航測は 2017 年 10 月に MONMAP 社と業務協力覚書を取り交わしました。同社はモンゴルにおける測量会社であり、2015 年より技術研修の受け入れを実施しております。この度は 2017 年 12 月から 2018 年 3 月まで約 3 か月間、2 名の研修員を迎え入れました。

研修は繁忙期であったため、社内の関係部署が協力し、先端計測技術や地形図・オルソフォト作成、3D モデル作成など、総合的な内容を効果的・効率的に学べるカリキュラムを考えました。また、モンゴル国においても今後導入される技術である MMS や航空機 LiDAR などを実際に体験（図 1）してもらう内容としました。

研修では、非常に熱心に、手順の一つ一つを丁寧に指導する技術者と、モンゴル国帰国後の実践を見据え疑問点を解消しようと懸命に取り組む研修員の姿が印象的でした。研修を通じ、技術指導だけでなくモンゴルの都市・

環境に関する情報を教わり、将来のより緊密な連携に向けた交流を行うことが出来ました。

わたしたち自身にとっても、他部門で実施している業務内容を改めて知るきっかけとなりました。

研修を終え帰国した 2 名の研修員は、研修で学んだ技術をさらに高めるため現在モンゴル国で実施されているプロジェクトのマネージャーとして MONMAP 社の中心となり活躍しています。



図1 アジア航測航空機による実地研修

## ジンバブエ国ハラレ市での現地研修

アフリカ南部に位置するジンバブエ国の首都ハラレ市は急速な人口増加による無秩序な土地開発に対応するため、効果的な都市開発計画とインフラ整備のベースとなる地形図の作成が急務であり、首都ハラレ市を対象とする JICA 地理空間情報データベース整備プロジェクト

（2015-2017）が実施されました。アジア航測は同プロジェクトを受託し、プロジェクト完了後も民間ベースで協力を続けております。

現在、DSG は JICA プロジェクトで実施された首都ハラレ市を囲う約 1,600 km<sup>2</sup>の範囲において縮尺 1/5,000 地

形図を作成予定ですが、現状の生産体制では完成まで数十年を要することが判明しており、生産体制の拡大が課題です。そこで、アジア航測は DSG の要請を民間ベースで受け、協議を重ね、2018 年 5 月、DSG の職員に対し、地形図の作成に関する研修を実施致しました。

研修費用の一部負担のため、DSG は他の省庁への申請や航空券の手配など多くの問題を解決する必要がありました。実現へこぎつけた DSG の熱意を感じ、渡航する際は身が引き締まりました。

研修は 2 週間という短い期間でしたが、10 数名の DSG 職員は技術を習得しようとノートにメモを残し、不明な点が出た際はそこで納得がいくまで聞くなど、積極的に取り組んだことで非常に内容の濃いものとなりました。また、研修ではアジア航測が開発した地形図作成ソフトウェア（Azuka）による図化実習（図 2）を行い、現在 DSG が導入しているソフトウェアと比べて、安価でしかも操作が分かり易く、図化に便利な機能が備わっており、非常に“ユーザーフレンドリー”だとの声が寄せられました。

さらに研修後半では、ジンバブエの図化分類・地図記号の設定や図化している現場の視察（図 3）、ハラレ市内の図化実習など実務に直結した内容に発展し、最終日には DSG によるプレゼンテーション、修了証授与式を行いました。

DSG の職員が非常に熱心に研修に取り組んだこと、そして現場で判明する様々な要望・課題に真摯に応え続けた技術者の奮闘により、研修は成功裏に終了し、DSG と今後も技術的な交流および協力関係を継続することで合意しました。

現在、DSG における Azuka の本格導入へ向けた準備が進んでいます。今度もジンバブエの発展に積極的に貢献すべく活動を続けます。



図2 図化実習 (Azuka)



図3 現場視察

## ABE イニシアティブにおけるインターンシップ

ABE イニシアティブのインターンシップ支援政策で来日する優秀な人材を発掘するため、アジア航測はこれまでに 3 名の留学生を受け入れております。

最近では 2018 年 3 月から 9 月までの約半年間、ガボンからの留学生を受け入れました。留学生は日本の大学で生物資源学を学んでおり、自然資源を有効活用した都市開発を母国ガボンで行いたいという夢を持っていました。

そのため森林情報管理や GIS など専門的な知識を習得できる部門にて技術研修（図 4）を行い、現場研修も実施しました。

アジア航測は現在、多様な国籍の人材が働いております。その多くは国内の技術部門にて、高度な技術を身につけようと業務に励んでおり、今後の活躍が期待されております。今後も外国籍の優秀な人材を採用していき、グロー

バリゼーションを進めていくため、引き続き ABE イニシアティブにおけるインターンシップを行っていく考えです。

また、留学生の受け入れに加え、留学中のアフリカ人学生を対象とした

インターンシップにも講師として参加し、アジア航測の活動やアフリカとの関わりを発表しております。2018 年は 16 か国 28 名の学生と交流し、アフリカの現状について情報交換を行うと共に、将来の協力可能性を探る貴重な機会となりました。



図4 ガボン留学生の成果発表会

## おわりに

アジア航測はこれまで国内外において多くの空間事業に従事してきた経験から、先端計測技術に留まらず、基礎的な技術の研修事業を実施できる環境が整っております。しかしながら、これまでは研修事業を主とした事業展開は行ってきませんでした。現在の開発途上国は、様々

な苦労を経験して、成長していく過程にあることから、研修事業を通じ、具体的なプロジェクトを実施できるビジネスチャンスにつなげていきたいと考えております。

アジア航測は、開発途上国とお互いに発展できる関係構築を目指し、引き続き研修事業に取り組んで参ります。